

小竹だより



開校60周年臨時号

練馬区立小竹小学校 校長 佐藤 正文

R2.5 No. 5 5 5

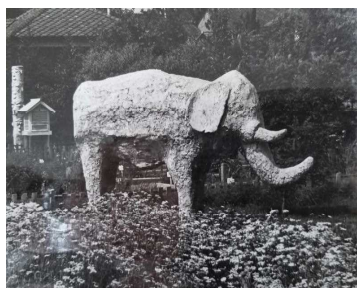
創五十年記念誌



練馬区立小竹小学校

小竹小学校 10周年 記念誌より

校長 佐藤 正文



【昭和 42 年（1967 年）5 月 プール完成】

前号では 5 周年記念誌より開校時の小竹小を紹介いたしました。校歌が制定される前に歌われていた楽譜も掲載されています。(本校 PTA 広報誌第 12 号(昭和 39 年)の座談会の中で「毎年 6 年生が作詞作曲して歌っていた」と大井校長先生がお話されていました)

小竹こどものうた

作詞・作曲 家富明美

- 1 おかからみえる やまなみに
きれいなあさやけ とびだした
あかるいこうしゃよ みんなのかおが
あさひに きらきら ひかっている
- 2 きれいなはなに つつまれて
きよくやさしく こころよく
のびるこたけよ あかるいこども
おおきなそらへ とんでいけ

さて、5 年の月日が過ぎ、10 周年記念誌の巻頭を飾った詩、題は「ぼくと小竹小」です。『ぼくが「オギャー」と生まれた年に 小竹

小学校も生まれました…」から始まります。この 10 周年の冊子には、一人一人の子供たちの願いや思いが巻末に載っています。6 年生「ぼくが わたしが 先生なら」では、「宿題はなるべく出さない」「水泳やドッジボールや体操をたくさん教えて生徒を立派な人にする」「宇宙に行って、いろいろな星をわたり歩いて楽しく勉強させたい」、今も昔も子供らしさは変わりませんね。

歴代校長先生、PTA 会長の方々での座談会も行われました。①草創のころの思い出②小竹の子ども、③ PTA をどう考える④今後の小竹小に望むをテーマとして話し合わせ、記録が掲載されています。

第 2 代校長 小島博夫先生は校内研究について「国語の面で発言前の思考力も含めて言語発表力をつける指導に力を入れた」とお話されていました。昭和 41 年度（1966 年）か



【昭和 35・36 年 校舎増築工事】

ら 3 年間の校内研究は、「聞く」「話す」「読む」を中心に実践されてきました。令和 2 年度本校の研究は言語活動の充実です。先輩方の実践に追いつくよう努力しなければ…。

昨年 11 月発行された『木漏れ日』の著書である当時 PTA 会長の砂本清一郎様（昭和 44・45 年度及び昭和 48・49 年度）は、「まず道路問題ですが、将来必ず実現する問題だけに、この交通公害をどのようにして最小限に食い止め、子どもたちを守っていくべきか、能力では限界がありますから気力で精一ぱい努力したいと思っています。」と話されていました。現在三六道路として町の素敵な遊歩道となる以前の話です。さらに、砂本様は PTA 活動のあり方についても見直しを図るため、アンケートをとり改善策を検討しご尽力されていました。

そして、開校から 10 周年を迎える間、PTA 会長を 2 度お引き受けいただいた山村寛様（昭和 38・39 年度及び昭和 42・43 年度）の奥様の言葉が掲載されております。

「当時の PTA は、戦前からのなごりと、戦後の物資難から後援会的要素が多分にありましたが、小竹小だけは新しい PTA 作りに、みんな、いっしょうけんめいでした。体育館落成の祝賀会（300 名列席）が、好評だったと喜んでおりました主人の顔が目には浮かびます。そして



【昭和 39 年 10 月 4 日 秋季大運動会】

第 18 回東京オリンピックを 1 週間後にひかえて】校舎増築、プール完成と通算四ケ年の在任中には、大きな行事がありましたが、すべて、地元の方々のご尽力や、先生方、PTA の方々のお力ぞえがあったので、微力ながら主人も大過なく果たすことができました。」（山村寛様は、PTA に心を残しながら、在任中にご逝去されました。）

記念誌の第 3 代校長中村薫先生のご挨拶の言葉を竹の「節目」に込めて、第 60 回卒業式において紹介させていただきました。

「その名のように健やかに」
『「こたけ」ほんとうによい名である。竹という植物は、まことにじょうぶです。曲げてもたたいてもなかなか折れず、また割れません。風にそよぐ姿は、いかにもやさしい。それでいて強い風にも負けることはない。根は地中に広く強く張り、その上は地割れなどしません。膚は美しく磨けば磨くほど光る。装飾品から実用品まで幅広く役立っているし長持ちする。このような竹のような心やからだをもつことができたら、それは人として理想的な、すばらしい人ではないでしょうか。こんな子供に育てたいという願いをもって小竹小は生まれました。』

創設 10 年。小竹小は 20 周年に向けてさらなる発展を続けます。（6 月臨時号に続く）